

資料 3 「財産白書」(モデルケース) について

①施設のコスト状況、利用状況などの比較 (地区公民館)

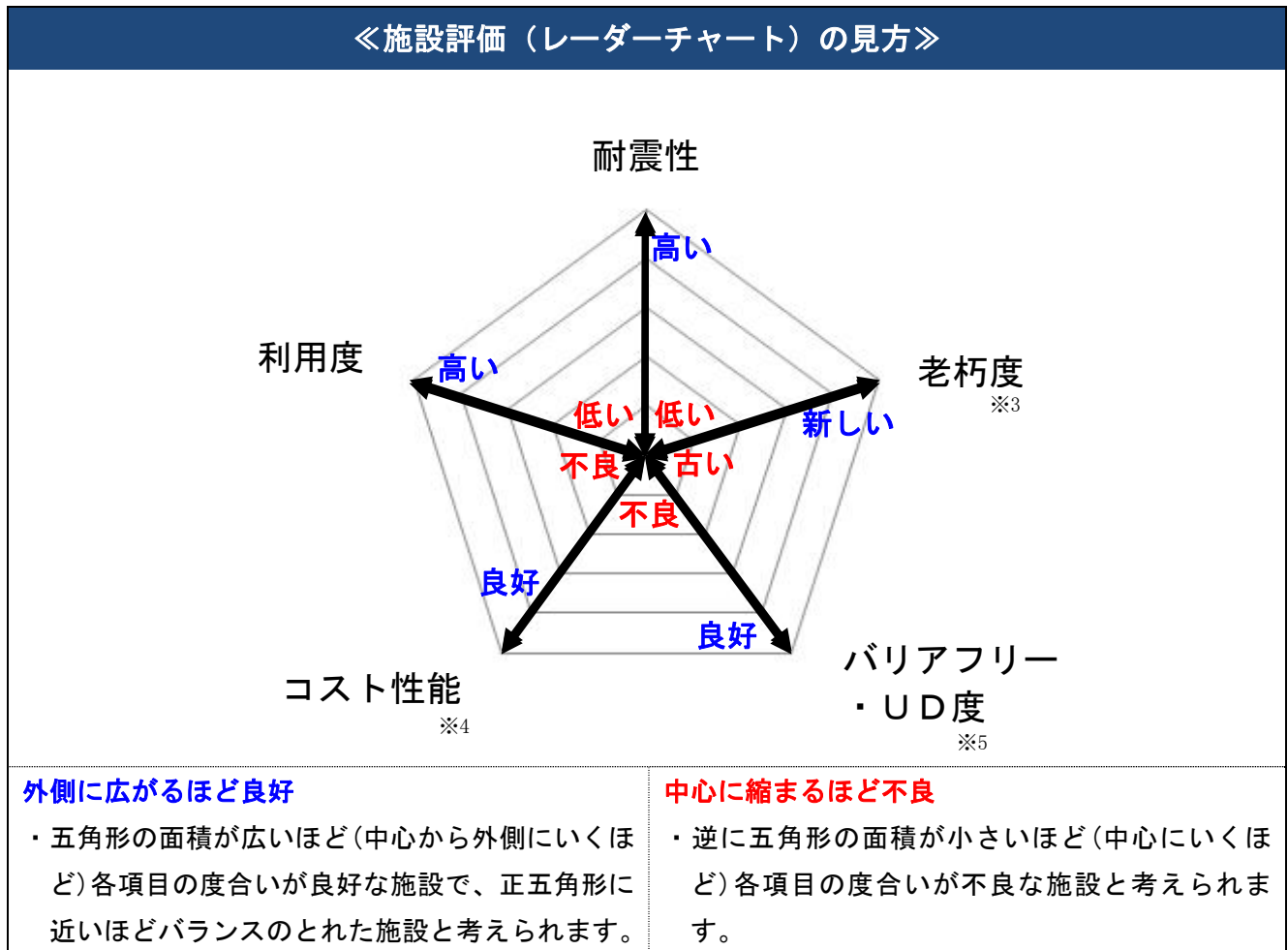


(複合施設: B, D, E, F, I, J, K)

※1 純コスト: 純コストには平成 23 年度に施設の維持管理に必要な光熱水費、保守委託料、人件費、指定管理料、減価償却費などの費用から、施設使用料、財産貸付料などの施設に係る収入を差し引いた額です。なお、大規模修繕工事に係る費用など臨時的な費用は含んでいません。

※2 利用率: 平成 23 年度における(実際に利用されたコマ数) / (利用可能なコマ数)

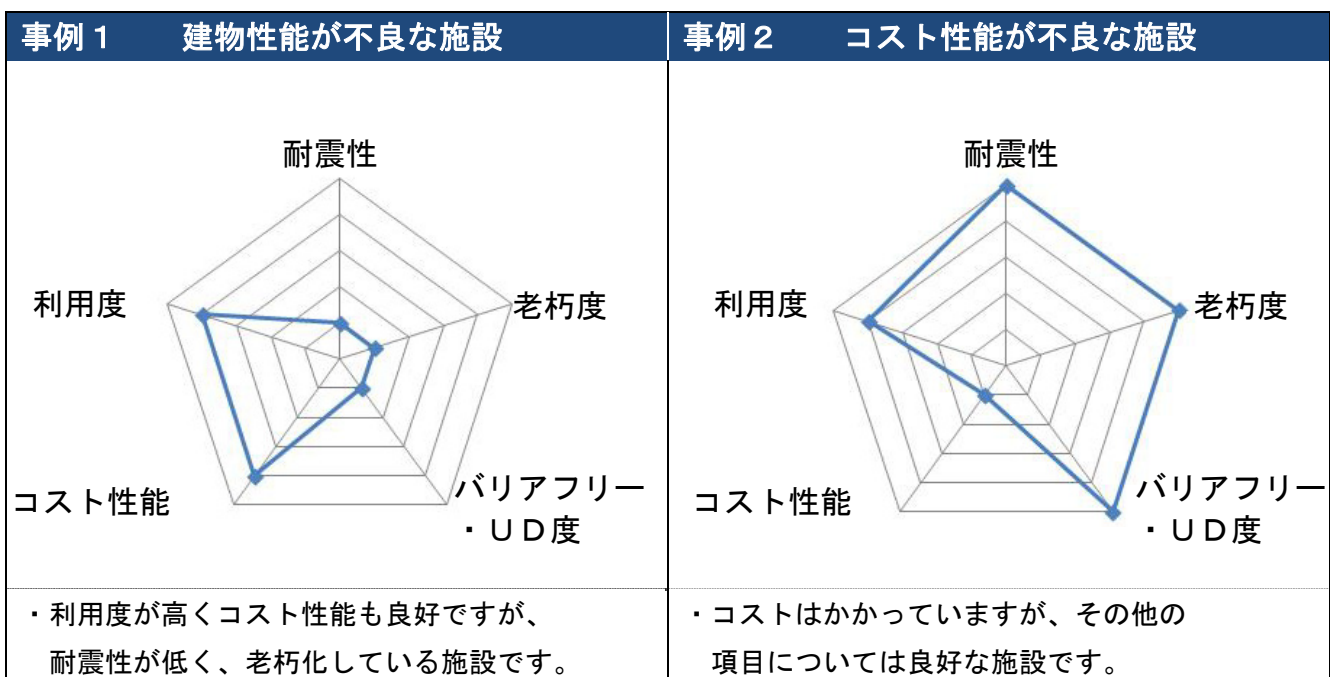
②施設評価（レーダーチャート）

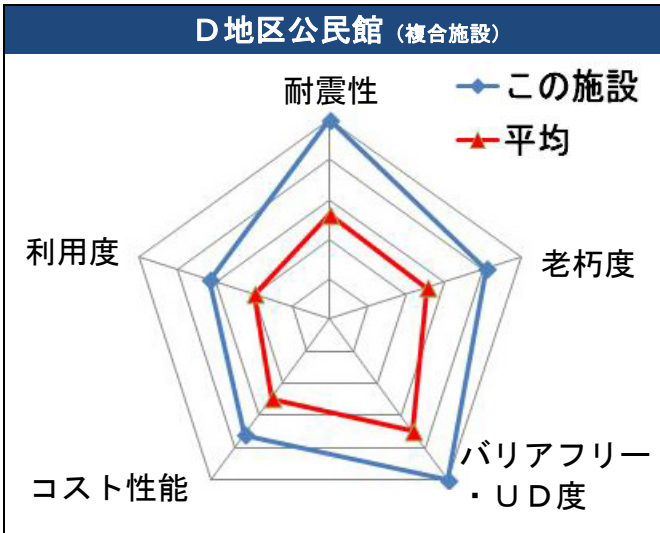


※3 老朽度:外側に行くほど老朽化が進んでおらず、逆に中心に行くほど老朽化が進んでいる施設です。

※4 コスト性能:外側に行くほどコスト性能が良好(利用者1人当たりコストが小)、逆に中心に行くほどコスト性能が不良な施設です。

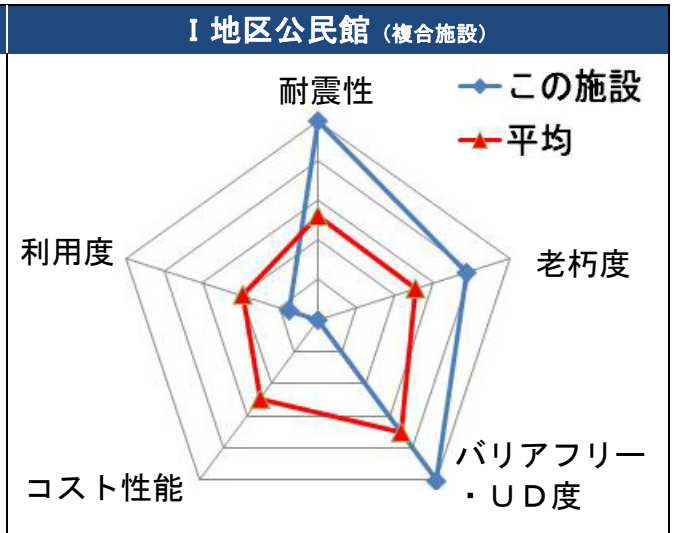
※5 バリアフリー・UD度:施設のバリアフリー化及びユニバーサルデザイン(UD)化の対応の度合いを示しています。





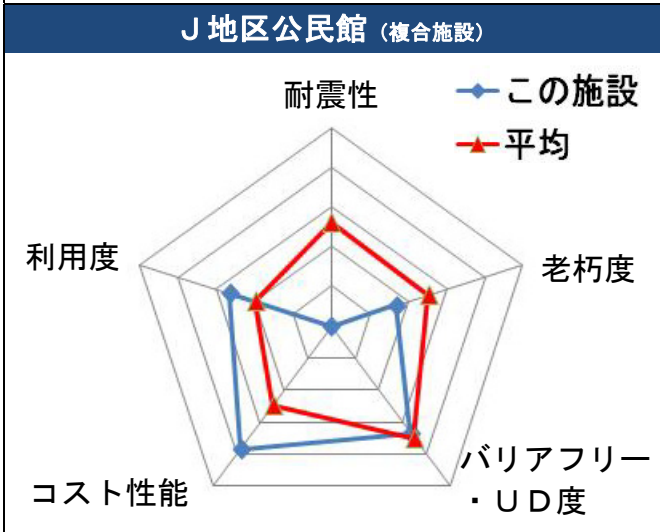
耐震性	高	老朽度	新
利用度	高	コスト性能	良
バリアフリー・UD度		良	

・比較的良好な施設です。
 ⇒引き続き良好な施設管理を進めるべき施設と考えられます。



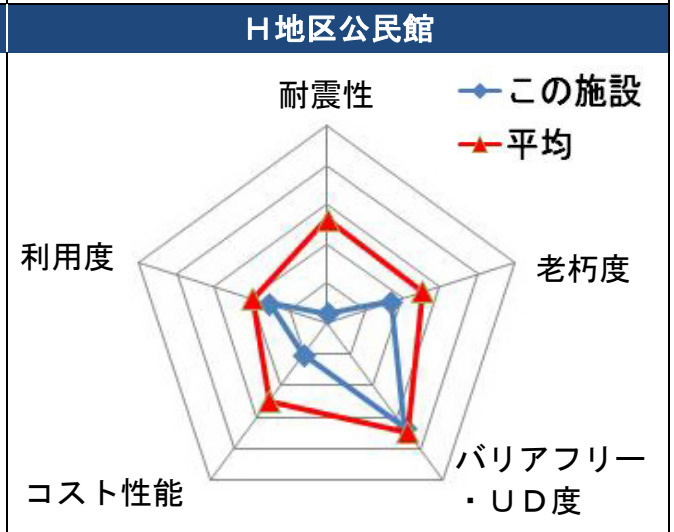
耐震化率	高	老朽度	新
利用度	低	コスト性能	不良
バリアフリー・UD度		良	

・比較の利用度が低く、コストはかかっていますが、その他の項目については良好な施設です。
 ⇒建物性能が良好であることから、利用度向上やコスト縮減を図る方策を検討する必要がある施設と考えられます。



耐震性	低	老朽度	古
利用度	高	コスト性能	良
バリアフリー・UD度		不良	

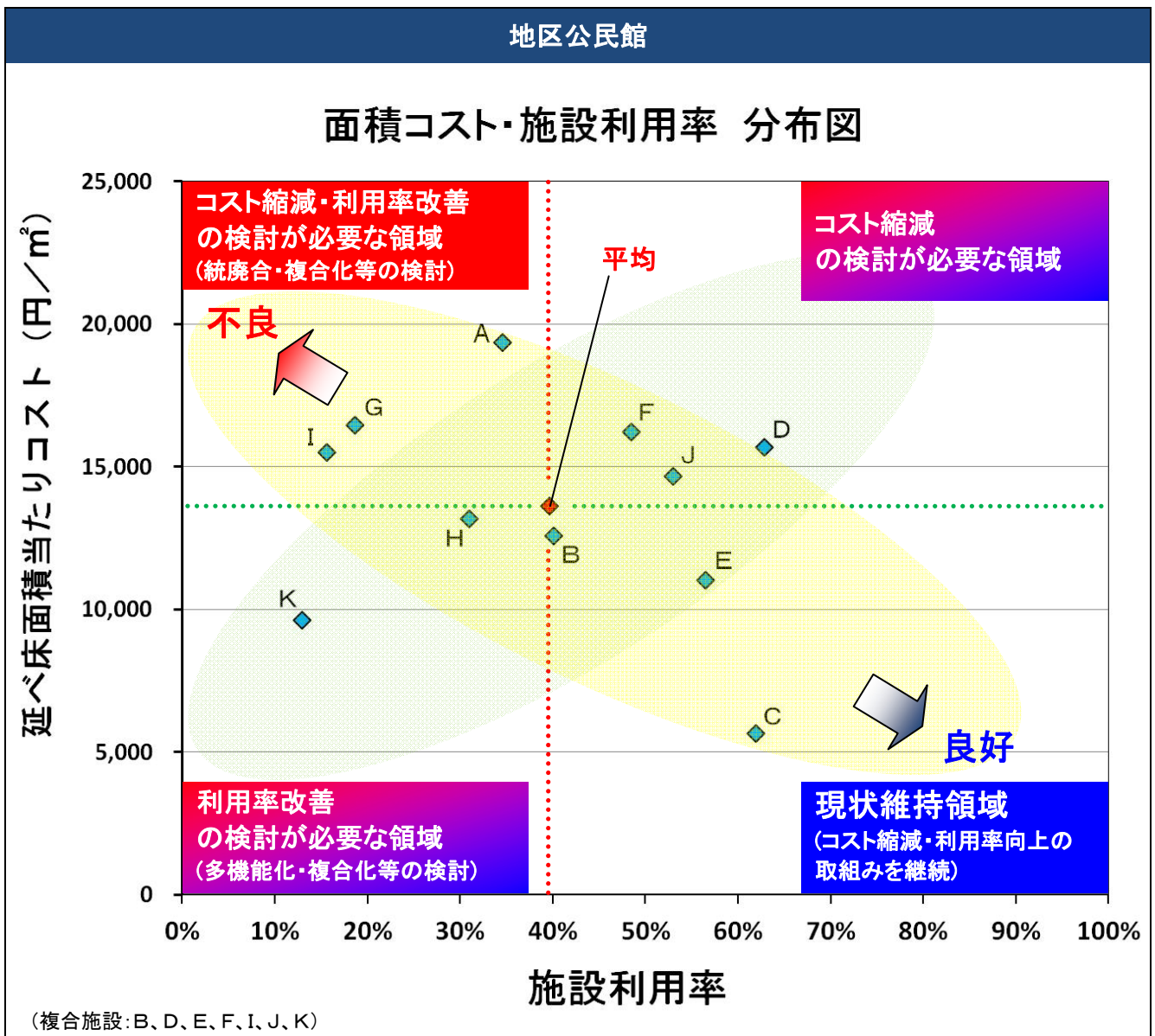
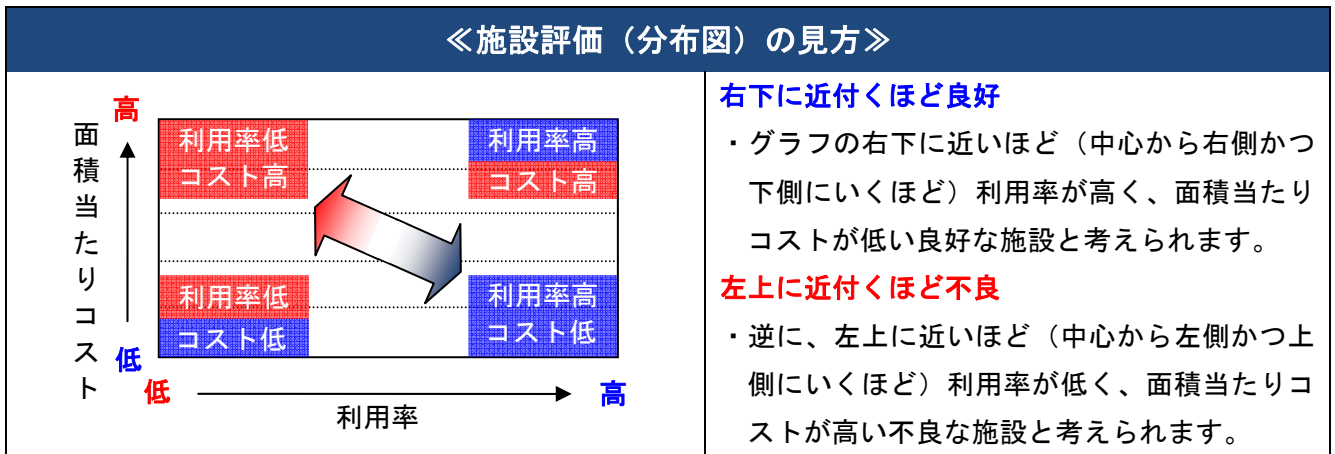
・耐震性が低く、全体的に建物性能が不良ですが、利用度が高く、コスト性能が良好な施設です。
 ⇒よく利用されている施設であることから、耐震性の向上や老朽改修などを行い、さらに市民サービス向上を図る方策を検討する必要がある施設と考えられます。



耐震性	低	老朽度	古
利用度	低	コスト性能	不良
バリアフリー・UD度		不良	

・全ての項目について、不良な施設です。(バリアフリー・UD度は平均に近い)
 ⇒利用度向上やコスト縮減に向けた方策(床面積が過剰でないか。老朽化によって市民が使えない設備等がないか。など)を検討する必要がある施設と考えられます。

③施設評価（分布図）



※ 本資料については、精査の結果、今後数値や図表などの記載事項が変更されることがあります。